

1.被害状況、復旧状況

	被害状況等	復旧作業状況等
施設区分	6月21日 16時00分現在	
道 路	全面通行止め 6路線 6区間	
	[国道342号] 一関市巖美町天王～秋田県境（土砂崩落、落橋-祭時大橋）	白崖地区復旧工事中、市野々原地区迂回路計画中、祭時～県境詳細調査中
	[国道397号] 奥州市胆沢区若柳字市野々原～秋田県境（法面崩壊）	通行止区間内土砂撤去中
	[主要地方道花巻衣川線] 奥州市衣川区大平（法面崩壊） 奥州市胆沢区下鹿合（路面損傷）・・・・・・・・	測量調査中 片側交互通行へ
	[主要地方道栗駒衣川線] 奥州市衣川区餅転橋（路面損傷）	測量調査中
	[主要地方道盛岡横手線] 雫石町南畑～西和賀町沢内川舟（土砂崩落）	片側交互通行に向け工事中
	[一般県道衣川水沢線] 奥州市胆沢区大袋（路面陥没）	片側交互通行に向け工事中
	片側交互通行 3路線 4区間	
	[国道107号] 西和賀町ゆだ高原駅付近（路面沈下）	
	[主要地方道花巻衣川線] 奥州市衣川区小田（路面損傷） 奥州市胆沢区下鹿合（路面損傷）	
	[一般県道夏油温泉江釣子線] 北上市和賀町内鱒沢（法面崩壊）	
	復旧済箇所 [主要地方道栗駒衣川線] 奥州市衣川区榎原新橋（路面陥没） 6月18日 規制解除 [主要地方道花巻衣川線] 金ヶ崎町永栄中山（路面損傷） 6月20日 14：00～ 規制解除	
河 川 砂 防	河道閉塞によるせき止め湖等の可能性があり、今後、雨等により被害が拡大する恐れのある箇所は、「一関市市野々原地区」を含め県内で6箇所となった。 県管理 [胆沢川（五松林橋上流左岸）] 堤防天端にクラック有り。L=50m、W=1.5cm、深さ15cm	
	[磐井川] 斜面崩壊により河道内に土砂流入（2箇所）。2箇所とも水位の上昇がみられないことを確認。	
	[久保川] 小規模な土砂崩落があり。堤防に一部クラック発生。	
	[尿前川（しとまえがわ）] 斜面崩落2箇所確認。	
	県管理外 [衣川支川有浦沢川（上衣川有浦地区）] 土砂崩落により河川閉塞。（L=30m、W=3-4m）	仮排水路を設置済。（奥州市管理普通河川）
	[磐井川上流] 斜面崩壊による河道閉塞を、新たに1箇所確認。磐井川上流では 計4箇所。 磐井川（一関市市野々原地区）	国土交通省 17日13時に記者会見し、市野々原地区の天然ダム（河道埋塞）箇所における直轄砂防災害関連緊急事業の実施を発表。事業費 - 10.7億円 ・仮排水路 開通 ・排水ポンプ 6台で排水中。 ・国道342号崩落道路処理 ・監視カメラ 2台設置済 ・上流域にセンサー設置等検討のため、20日現地調査。 県 市野々原地区に通じる重機運搬路を17日中に概成。当該地区への資材の搬入が可能となる。照明車が現地入り。
	磐井川（一関市須川岳国有林内） 湯尻沢（一関市須川岳国有林内） 一ツ石沢（一関市須川岳国有林内）	
[産女川上流] 山腹崩壊により、1km以上に渡り土砂が堆積。上空からの確認のため、数量などの詳細は不明。 産女川（一関市須川岳国有林内） 土石流発生の情報有り	龍の口えん堤にワイヤーセンサー設置のため現地立入（23日の運用を目標） 上流域には林野庁でワイヤーセンサーを設置。	

	被害状況等	復旧作業状況等
施設区分	6月21日 16時00分現在	
河川 砂防	[北股川上流] 斜面崩壊による河道閉塞を1箇所確認。 上空からの確認のため、数量などの詳細は不明。 北股沢（奥州市衣川区増沢地内）	
	・現時点での砂防えん堤の被害報告なし。	現在調査中
	・衣川地区で地すべりの報告	表層崩落により今後対応策検討。自主避難4戸18名。 亀裂部分にシート保護を実施。
		・TEC-FORCE、砂防ボランティア、県の合計61名が、土砂災害の危険箇所を緊急点検。箇所数は累計1,645箇所。 結果：危険度A（要検討）9箇所、危険度B（要詳細調査）52箇所 通行止箇所等を除き完了
		【土砂災害警戒情報】 15日から地盤の緩みを考慮し、通常より少ない雨量で発表。
都市公園	奥州市管理 水沢公園、向山公園、見分森公園、北野公園、久保公園、高台公園一部被害あり。	
下水道	県管理 [水沢浄化センター] 汚泥消化タンクかくはん機及び、汚泥濃縮機他故障	現在調査中 （別系統に運転を切り替えて機能維持しており、運転上は支障なし）

	対応状況等	判定結果
施設区分	6月21日 16時00分現在	
住宅	<p>一般住宅(被災建築物応急危険度判定)</p> <p>15日14時30分 - 県庁に、被災建築物応急危険度判定支援本部を設置。</p> <p>一関市</p> <p>17日 - 市野々原地区、祭時地区、槻木平地区で、県及び市が判定活動を実施。 体制: 県2名、盛岡市2名、花巻市1名、北上市1名の計6名(3班体制)</p> <p>19日 - 巖美町小猪岡(こいのか)地区で、判定活動を追加で実施。 体制: 一関市4名(2班体制)</p> <p>奥州市</p> <p>16日 - 県2名と奥州市4名の計6名(2班体制)により、胆沢区、衣川区において判定活動を実施。</p> <p>17日 - 奥州市4名(2班体制)により、胆沢区において判定活動を実施。</p> <p>18日 - 胆沢区、衣川区で判定活動を実施。 体制: 県7名、盛岡市2名、奥州市2名、陸前高田市2名、釜石市2名、宮古市2名、岩手県建築住宅センター1名の計18名(9班体制)</p> <p>19日 - 胆沢区、衣川区で判定活動を実施。 体制: 県4名、盛岡市2名、奥州市2名、北上市1名、陸前高田市2名、釜石市2名、宮古市2名、(社)岩手県建築士会14名、(財)岩手県建築住宅センター2名の計31名(15班体制)</p> <p>20日 - 胆沢区、衣川区で判定活動を実施。 体制: 県13名、盛岡市2名、奥州市3名、花巻市1名、陸前高田市2名、遠野市2名、宮古市2名、(社)岩手県建築士会51名、(財)岩手県建築住宅センター1名の計77名(38班体制)</p> <p>西和賀町</p> <p>16日 - 県職員3名(1班体制)により、川尻地区、白木野地区において被災建築物応急危険度判定活動を実施。</p>	<p>判定結果総計(6月16日～20日) 調査棟数1,161棟 - 危険54棟、要注意273棟、使用可能834棟内訳は、次のとおり</p> <p>調査棟数46棟 - 危険8棟、要注意18棟、使用可能20棟。</p> <p>調査棟数7棟 - 危険1棟、要注意4棟、使用可能2棟。</p> <p>調査棟数33棟 - 危険5棟、要注意17棟、使用可能11棟。</p> <p>調査棟数34棟 - 危険0棟、要注意16棟、使用可能18棟。</p> <p>調査棟数174棟 - 危険3棟、要注意20棟、使用可能151棟。</p> <p>調査棟数246棟 - 危険5棟、要注意57棟、使用可能184棟。</p> <p>調査棟数619棟 - 危険32棟、要注意139棟、使用可能448棟。</p> <p>調査棟数2棟 - 要注意2棟。</p>
	<p>応急仮設住宅等被災者のための住宅対策</p> <p>市町村からの要請</p> <p>一関市</p> <p>被災者が希望する場合の県営住宅への入居について県に要請あり。 一関市(3戸)、奥州市(3戸)、北上市(5戸)内の県営住宅を7月の定期募集から外し、被災者用に当面確保することとし、関係市に通知した。</p>	<p>一関市: 巖美公民館山谷分館(旧山谷小学校)を長期避難先として活用決定。来週中に入所予定。</p>
	<p>被災宅地危険度判定(震災後の宅地の安全性を確認するための調査を行うもの)</p> <p>一関市</p> <p>・17日 県1名及び市(盛岡市、花巻市、北上市)3名の計4名の職員で実施済。</p> <p>奥州市</p> <p>・19日(県4班8名、市町村8班16名 計12班24名) ・20日(県5班10名、市町村8班16名 計13班26名)で実施済。 (県以外の参加は、盛岡市、花巻市、奥州市、紫波町、矢巾町)</p> <p>西和賀町</p> <p>・18日に県職員3名で実施済。</p>	<p>危険な地割れの状況が有ることを確認しているが、現地での調査時間不足であったため、今後の対応について市と協議予定。</p> <p>全調査件数293件 - 危険8件、要注意37件、問題なし248件</p> <p>全調査件数2件 - 要注意1件、問題なし1件</p>
	<p>住宅相談窓口の設置等住宅情報提供</p> <p>19日より今回の地震に対応した住宅相談窓口を設置。 [6箇所] 県南局土木部、一関局土木部、北上市土木部 建築住宅課、県民住宅プラザ(盛岡・水沢)</p>	